

意志を表すモダリティ表現の「(意向形+) と思う」「要」/「つもりだ」「打算」/「予定だ」「准备」に関する中日対照研究

A Chinese/Japanese contrastive study on intentional modality expressions:
(intention type+) *to-omou* vs. *yào*, *tsumori-da* vs. *dǎ suàn*, and *yotei-da* vs. *zhǔn bèi*

張 婧禱[†]
Zhang Jingyi[†]

Abstract Modality is defined as an expression that shows a speaker's attitude towards truth. Various modality expressions exist in Japanese. Among them, *to-omou*, *-tsumori-da*, *yotei-da* are used to express a speaker's intentions. These expressions are introduced to Chinese students learning Japanese as a second language at the beginner's level. The Japanese expressions of *to-omou*, *tsumori-da* and *yotei-da* are translated into *yào*, *dǎ suàn*, *zhǔn bèi* in Chinese. However, while these pairs are similar, they slightly different in meaning, often resulting in errors by native Chinese speakers. Thus, the present study conducted a contrastive study on intentional modality expressions of *to-omou* vs. *yào*, *-tsumori-da* vs. *dǎ suàn*, and *yotei-da* vs. *zhǔn bèi* to clarify the differences in meanings between Chinese and Japanese in order to promote the understanding of these Japanese modality expressions for native Chinese speakers leaning Japanese.

1. はじめに

一定の内容となる事態に対してさまざまな述べ方がある。そのような述べ方を表す部分は、話し手の発話時における心的態度を示す。言語学では、このような述べ方をモダリティと呼ぶ(森山・仁田・工藤 2000)。多様なモダリティ表現を介して、話し手の気持ちまたは心的態度を聞き手に伝えることができる。

仁田(2009)は、このようなモダリティを含む日本語の文を、意味と統語の構造から、図1のように示した。文の意味内容は、「命題」と「モダリティ」の2つの部分に分けられる。

命題は、客観な事態を表し、モダリティは客観な事態に対して、話し手の心的態度や主観的な感情である。また、モダリティに関する表現はさまざま存在する(仁田, 2009)。文における担う話し手による心的意味役割によって、「認識(判断)のモダリティ」、「説明のモダリティ」、

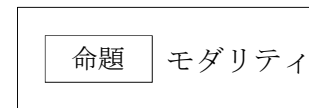


図1 日本語文の意味・統語の構造図

(仁田, 2009 より)

「評価のモダリティ」および「発話・伝達のモダリティ」という4種の分類される(益岡, 2007: 5)。

まず、先頭に並んでいる3種の分類である「認識(判断)のモダリティ」、「説明のモダリティ」と「評価のモダリティ」について、以下の表現が例として挙げられ、説明できる。たとえば、

(1) 明日、雨が降るだろう。

という文の「だろう」の表現では、話し手が翌日の天候に対する推測を表す表現であるため、「認識(判断)のモダリティ」と呼ばれる。

[†] 愛知工業大学 基礎教育センター (豊田市)

また、

(2) その文章は私が書いたのだ。

という日本語の文における「のだ」は、「私が書いた文章」という事実を説明する表現であるため、「説明のモダリティ」と呼ばれる。さらに、

(3) 明日試験があるので、勉強しなくてはならない。

の「しなくてはならない」の表現は、ある行為を行うのが義務である話し手の気持ちを表しているため、「評価のモダリティ」と呼ばれる。

以上のような3つの分類の他に、「発話・伝達のモダリティ」と呼ばれるモダリティもある。このモダリティは、発話の情報伝達によって、「命令」、「誘い掛け」、「願望」および「意志」などを示す(仁田, 1991; 陳会林, 2009)。そのため、「発話・伝達のモダリティ」は前者の3つのモダリティのカテゴリとは異なり、さらに詳しく細分化できる。たとえば、

(4) 明日、図書館に行こうと思う。

であれば、「発話・伝達のモダリティ」の表現のうち、以下の文の「(行) こうと思う」は、「(意向形+) と思う」の形で意思を表現する。

また、

(5) ずっと前から僕がやるつもりだった。

の例文では、過去形で表された「つもりだ(った)」で意志を表す。もちろん、「だった」という過去形を使うことで、実際にはやらなかったことを示している。おそらく誰か他の人がやったのであろう。

また、

(6) 明日、会社を辞める予定だ。

の例文では、「予定」が使われているが、だれが決定したかを問題にせず、本人の意思で辞めるのではなく、明日、そういうことが行われるという意味になる。これらの3つの例文で示した表現は、話し手の意志を表す代表的な「発話・伝達のモダリティ」である。

日本語学の分野では、1970年代から今日まで、モダリティに関する研究が盛んに行われてきた。過去の豊富な研究成果に基づき、モダリティ表現は日本語教育の文法の項目の一つとして定着している。そのうち、上記に挙

げた意志を伝達する「(意向形+) と思う」、「つもりだ」および「予定だ」という3つのモダリティは、日本語学習の早い段階で教育現場に導入されている。これらの表現には、母語である中国語で、意味的に対応する訳語がある。日本語の「(意向形+) と思う」は中国語の“要(yào)”と対応し、「つもりだ」は中国語の“打算(dǎ suàn)”と意味し、「予定だ」は中国語で“准备(zhǔn bèi)”と訳される。

しかし、対訳は意味的では、中日両言語に類似性を示すものの、実際の使用においては微妙な違いがある。そのため、中国人日本語学習者にとって、日本語の3つの意志のモダリティを習得する際には、母語の影響を受けると考えられる。そのため、実際に中国人日本語学習者による誤用例がよく産出されている。

そのような背景下で、日本語のモダリティはどのように習得されるかを解明することを前提として、本稿では、中日対照の視点から、話し手による意志を表す「(意向形+) と思う」、「つもりだ」および「予定だ」という3つの「発話・伝達のモダリティ」表現を中心に、中国語の“要(yào)”、“打算(dǎ suàn)”および“准备(zhǔn bèi)”と比較する。正用または誤用の例文を用い、中日両言語間における言語の意味的使用における異なりを明らかにする。

2. 中日両言語における意志モダリティの正用・誤用例

日本語の意志を表す「発話・伝達のモダリティ」表現と対応する中国語の表現には、“要(yào)”「(意向形+) と思う」、「打算(dǎ suàn)”「つもりだ」および“准备(zhǔn bèi)”「予定だ」がある。そのうち、“打算(dǎ suàn)”と“准备(zhǔn bèi)”は動詞として意味的な使用に違いがなく、同義語とされ、言い換えることができる。“要(yào)”では、比較的強い主観願望・希望の意味を示すため、これらの表現において、事実の確定度が最も低い表現といえる。これら3つの表現は中国語で、人称制限がなく、意志を表す表現として使用される。

土岐(2010)は、意志を表す日本語のモダリティ表現について、日本語を中国語と対照しながら、中日両言語における対応関係をまとめている。そのうち、二および三人称の意志を表し、過去表現と共に使用できる二次的モダリティのうち、日本語の「つもりだ」は、中国語の“要(yào)”「(意向形+) と思う」、「打算(dǎ suàn)”「つもりだ」および“准备(zhǔn bèi)”「予定だ」という3つの表現と対応する関係があると指摘している。このような土岐(2010)による二次的モダリティは表1のようにまとめられる。

意志を表すモダリティ表現の「(意向形+) と思う」「要」「つもりだ」「打算」「予定だ」「准备」に関する中日対照研究

表1 二次的モダリティに関する日本語の意志モダリティ表現と中国語の対応

	日本語	中国語	中国語と対応する日本語
二次的モダリティ表現	つもりだ	要	(意向形+) と思う
		打算	つもりだ
		准备	予定だ

(土岐, 2010 より作成)

そこで、中日両言語間においては、意志の意味を示す発話・伝達のモダリティ表現のうち、日本語では、「つもりだ」に対し、中国語では「要 (yào)」、「打算 (dǎ suàn)」、「准备 (zhǔn bèi)」という3つの対応する表現ができる。そのため、中日両言語における対応関係になる表現において、使用上に境界線はどこまで引けるのか曖昧であり、中国人日本語学習者に対して、母語の影響で誤りやすいのではないかと考えられる。

たとえば、「(意向形+) と思う」、「つもりだ」と「予定だ」という意志を表す日本語のモダリティ表現に対して、以下のような学習者による中日対訳文の誤用例および日本語の正用例が挙げられる。中国語をそのまま日本語に訳すと、中日で対応した訳文と非対応の訳文ができる。以下は、「(意向形+) と思う」、「つもりだ」と「予定だ」に関する中日対応訳または非対応の例である。

(7) 中国語：我现在要/打算/准备去买东西，不一起去吗？

日本語：今から買い物に行くつもり/予定ですが、(非対応訳) 一緒に行きませんか。

日本語：今から買い物に行こうと思いましたが、(対応訳) 一緒に行きませんか。

(8) 中国語：然后，在其他方面也要改革。

日本語：*1そして、他にいろいろな点も改革した(非対応訳) じっくり/予定です。

日本語：そして、他にいろいろな方面も改革した(対応訳) じっくりと思えます。

(9) 中国語：要是我是医生，我想改革医疗制度。

日本語：もし私が医者だったら、医療制度を改革(非対応訳) するつもりだ/予定だ。

日本語：もし私が医者だったら、医療制度を改革(対応訳) したい。

まず、例文(7)のように、意志を表す時に、「(意向形+) と思う」と「つもりだ」、「予定だ」との誤用が現れる。つまり、中国人日本語学習者にとって、これら3

つの意味の区別ができない傾向がある。

また、例文(8)および(9)のように、中国語では、意志を表す「要」は、「打算」「つもりだ」や願望を表す助動詞の「想 (xiǎng)」の「たい/たがる」と共に表現できる(呂叔湘, 1999: 592)。

しかし、日本語では、意志のモダリティである「つもりだ」と「予定だ」を「たい」または「たがる」と結び付けると、間違った例になる。そこで、日本語では、「つもりだ」と「予定だ」は話し手が自分の意志・意向を表す時に、願望や希望を表す「たい」「たがる」と結び難いことが分かった。つまり、「たい/たがる」と「つもり/予定だ」の共起表現は重複表現となるので、使われないということである。

それに対し、「(意向形+) と思う」と異なり、「と思う」は自分の認識を表す時に使われている表現として、「たい」「たがる」と結び付けて表現することが可能である。それらの言語現象について、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(少納言)』(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)のコーパスで使用例文を検索してみると、「つもりだ」を使用する検索例 11,078 文のうち、希望や願望を表す表現の「たい」および「たがる」が使用されたのは、わずかに2例しか抽出できなかった。

一つは、『国語2』出典に掲載された太宰治の著書『走れメロス』の「言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、ただ、わたしに情けをかけたいつもなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。」(宮地裕ほか、光村図書出版株式会社, 2005)である。

もう一つは、多岐川恭の著書『江戸妖花帖』の「その京助を送りがてら、布袋屋に行くことにした。安価な浴衣地を一反、買いたいつももある。行ってみると、店はいつもの通り。茂助は帳場にいたが、むしろさっぱりした。」(光文社, 1993)である。

また、「予定だ」を使う使用例は1,386文があり、そのうち、「たい」および「たがる」と共起し表現したのは0例であった。この両者に対し、「と思う」を使う例文は162,476文があり、「～たいと思う」および「～たがると思う」の組み合わせで表現した例文は15,293文があり、全体の9.41%を占めた。しかし、「(意向形+) と思う」を使用した18,377検索文のうち、「(意向形+) と思う」と「たい」および「たがる」というような組み合わせで表現した例文は0文となった。

つまり、実際の現代日本語の使用からみれば、これらは、「と思う」と異なり、意志を表すモダリティの「(意向形+) と思う」、「つもりだ」および「予定だ」が願望と希望を表す表現の「たい」と「たがる」と共起し難いと考えられる。さらに、「つもりだ」および「予定だ」両

1 文の前の*は、誤用文を示す。

者について、以下の誤用例と正用例も挙げられる。

- (10) 日本語：私は来年就職するつもりです。
 中国語：我明年打算就职。(筆者訳)
 日本語：私は来年就職する予定です。
 中国語：我明年准备就职。(筆者訳)
- (11) 日本語：*今度の週末にクラス全員でお花見に行く
つもりだ。
 中国語：这周末,班里所有人打算去赏花。(筆者訳)
 日本語：今度の週末にクラス全員でお花見に行く
予定だ。
 中国語：这周末,班里所有人准备去赏花。(筆者訳)
- (12) 日本語：*先生は明日の日曜日どこへ行かれるお
つもりですか。
 中国語：老师,明天周日您打算去哪儿?(筆者訳)
 日本語：先生は明日の日曜日どこへ行かれるご予
定ですか。
 中国語：老师,明天周日您准备去哪儿?(筆者訳)
 (市川, 2005 より)

そこで、「予定だ」と「つもりだ」について、例文(10)のように両方とも使える場合もあるし、例文(11)のように、「予定だ」しか使えない場合もある。

また、例文(12)では両方とも使えるが、敬語上の問題で、目上の相手に尋ねる時、「つもりだ」を使ってしまうと、失礼になってしまうので、誤用とされる。中国語の“打算”では、「計画する」と意味し、過去を表す表現と共に使われる(呂叔湘, 1999: 139)。また、中国語では、“准备”および“打算”は同義語であり、いずれも助動詞として、後に来る動詞と一緒に、今後の行為の遂行を表すために使われている。たとえば、

- (13a) 我准备明天去图书馆看书。
 (13b) 我打算明天去图书馆看书。

中国語では、(13a)と(13b)はほとんど同じ意味を示し、いずれも、「明日、図書館へ本を読みに行く」という行為の遂行を意味し、実行する意志を表す。また、願望や希望を表す“想”とも共起できる。そのため、中国語では、意志・遂行を示す際に、両者が置き換えることができる。

しかし、日本語では、中国語と異なり、「予定だ」と「つもりだ」の意味的な使い分けがある。それについて、次の節で説明する。

以上のように、学習者は「(意向形+)と思う」「つもりだ」「予定だ」という3つの意志を表す日本語のモダリティ表現の習得における母語の転移が生じるため、習得されにくいといえよう。したがって、本稿では、テンス

とアスペクトとの関連性を考察の対象から外したうえで、これら3つの表現の意味使用における中日両言語の相違点を検討する。

3. 「(意向形+)と思う」「つもりだ」と「予定だ」の意味的使い分け

3・1 「(意向形+)と思う」

「(意向形+)と思う」は自分のある行為に対する意志を聞き手に伝える場合に使用する。そして、学校教育では、一人称以外には使えないとされている。たとえば、

- (14) 来年は留学しようと思っています。

という日本語の文であれば、学校文法では、一人称である自分に留学する意志があるということ聞き手に伝達する文である。二人称で使う場合には、意志を尋ねる場合に疑問の形をとって使われる。しかし、三人称では使用されない。三人称で使用する場合には、「(意向形+)と思っている」と表現することは可能であり、この種の文の容認度が高いと思われる。

ここで、動詞が「意向形」ではない場合には、「来年は留学すると思う」となり、これは意志のモダリティではなく、留学するだろうという判断のモダリティ表現になってしまい、聞き手に伝達したい情報が、意図した内容と違ってくる。そのため、「と思う」の前には「動詞の意向形」を使わなくてはならない。

3・2 「つもりだ」

「つもりだ」は個人的に事前に決意し、その意思が固まっていることを表す。しかし、話し手が発話時点でその場で決めたことには使わない。それは、上記の例文(7)(8)(9)の誤用と判断された理由である。

また、次のような誤用例もある。

- (15) 中国語：山田打算毕业后当医生。
 日本語：*山田さんは卒業してから、お医者さんになるつもりだ。

これは、「つもりだ」は話し手自分の心的態度を表す表現であり、他人の意志のような心的態度を直接表すことができないため、(15)の日本語は誤用文とされる。推量助詞の「ようだ」「らしい」を付ければ、下記の(16)と(17)となる。

- (16) 山田さんは卒業してから、お医者さんになるつもりのようだ。

(17) 山田さんは卒業してから、お医者さんになるつもりらしい。

こうした(16)および(17)は(15)と比べ、「ようだ」「らしい」という推量表現を加えたため、他人の心的態度を、話者の立場で間接的に表現することができるので、より自然な日本語となり、容認度が上がる。一方、中国語においては、このような人称使用上の制限がない。そのため、「山田さん」のような三人称に対しても、使うことができる。

また、例文(12)の「先生は明日の日曜日どこへ行かれるおつもりですか。」では、目上の人に対して、「つもりだ」を使うと、失礼な表現と思われ、誤用文とされる。これを回避するため、「先生は明日の日曜日どこへ行かれるご予約ですか。」とすると、相手の気持ちを表現するのではなく、あくまで予定であるという客観的な表現で、さらに美化語の接頭辞「ご」を「予定」の前につけて、目上の人に対して敬意を示すことができる。

しかし、「つもりだ」を使う表現がすべて意志を表すわけではない。たとえば、下記の(18)、(19)と(20)の例文では、

(18) スーツを一着買ったつもりで、基金に5万円寄付した。

(19) あれ、私のメガネ知らない？ここに置いたつもりだけど。

(20) あなた、それでも家族を大事にしているつもり？

(庵, 2000; 2001 より)

これらの3つの例文の「つもりだ」は、意志を表す用法ではない。例文(18)の「つもりだ」の場合は、「スーツを買う」という事実と反することを想定し、「基金に5万円を寄付した」という行為を行うという意味を指す。また、例文(19)の「つもりだ」では、自分がすでに行った行為に対して間違っていないと確認する場合に使用された例である。さらに、例文(20)の「つもりだ」では、自分以外の人々が信じていることが事実と食い違った場合に使う表現である。

本稿では、上記の3つ例のように意志のモダリティを表さない「つもりだ」の用法は、検討の対象外とした。

3・3 「予定だ」

「つもりだ」は、個人的な行為を指すことに対し、「予定だ」は、他人と相談したうえで決めたことを表す時に、使うモダリティであり、公的決定行為というニュアンスを含んでいる。たとえば、以下のような例文(10)と(11)がある。

(10) 私は来年就職するつもりです。

私は来年就職する予定です。

(11) *今度の週末にクラス全員でお花見に行くつもりだ。
今度の週末にクラス全員でお花見に行く予定だ。

(市川, 2005 より)

例文(10)の場合では、「つもりだ」と「予定だ」が両方とも使える。しかし、例文(11)の場合では、「予定だ」しか使用できない。「つもりだ」を使うと、誤用文とされる。ただし(10)では、両方の表現が可能ではあるが、意味的には微妙な違いがある。

たとえば、「私は来年就職するつもりだ」の場合は、話し手の個人的な心づもりで、個人的な意志というニュアンスが強い。それに対し、「私は来年就職する予定だ」では、(いろいろ他人と相談して)公的に決定事項を発表するという意味を含むため、「つもりだ」と比べ、実現する可能性も高くなると考えられる。つまり、「つもりだ」は個人的な意志だけ表すのに対して、「予定だ」では、公的に決定事項を意味すると言えよう。こうして、(11)では、「つもりだ」で「クラス全員でお花見に行く」のような集団的な意志、あるいは、集団のある行為を行う意志を表す場合、「個人の意志決定」に使われる「つもりだ」を表現すると、日本語としての容認度が落ちてしまう。

以上のように、「(意向形+) と思う」、「つもりだ」と「予定だ」という3つの表現においては、人称制限があり、願望・希望表現の「たい/たがる」と共起し難く、事柄を表す文の内容に対する確信度、つまり、ある行為を実現する可能性を示す程度も異なると考えられる。

4. 意志のモダリティにおける中日の対応関係

本稿の第2節においては、土岐(2010)が論じた二次的モダリティに関して、日本語の意志を表すモダリティ表現と中国語の対応を表1にまとめた。表1に示したように、二人称・三人称の場合(二次的)、日本語では「つもりだ」に対して、中国語では3つの表現形式がある。しかし、二次的だけではなく、一次的、つまり、一人称の場合も、中国語と日本語の対応関係は複雑であり、中国語の“要”、“打算”および“准备”と日本語の「(意向形+) と思う」、「つもりだ」および「予定だ」は、必ずしも一対一の意味的な対応関係があるわけではない。たとえば、例文(7)の誤用では、中国語においては、“要”、“打算”および“准备”、いずれも使うことができる。しかし、日本語では、「(意向形+) と思う」のみが正しい表現である。

逆に、日本語の「(意向形+) と思う」と対応する中国語を考えると、“要”、“打算”および“准备”いずれも

表現が可能である。しかし、意志を表す中国語の“要”、“准备”と“打算”は、日本語と比べると、人称制限がなく、事実に対する確定度（実現の可能性）も日本語とは異なる。

しかし、このような対応関係における微妙な意味関係を区別せずにそのまま使用すると、誤りが起こり易くなり、中国語を母語とする日本語学習者による過剰使用の危険性が生じる。

5. まとめ

本稿では、中日で対訳が可能な意志を表すモダリティ表現「(意向形+)と思う」/“要”、“つもりだ”/“打算”および「予定だ」/“准备”について考察した。そして、中日両言語における人称制限、意味表示、事実の確定度（行為実現の可能性）および願望・希望を表す「たい/たがる」との結合の可否の 4 点でまとめた。その結果は、表 2 に要約したとおりである。

表 2 意志を表すモダリティ表現に関する中日対照

日本語		(意向形+) と思う	つもりだ	予定だ
人称 制限	第一人称	○	○	○
	第二人称	疑問句のみ○	疑問句のみ○ (目上には△)	○
	第三人称	×	×	○
意味表示		主観意志	個人意志	公的な決定事項
事実の確定度 (実現の可能性)		低い	中間程度	高い
願望・希望表現の 「たい」「たがる」との共起		×	×	×
中国語		要	打算	准备
人称 制限	第一人称	○	○	○
	第二人称	○	○	○
	第三人称	○	○	○
意味表示		主観意志	個人意志および 公的な決定事項	公的な決定事項
事実の確定度 (実現の可能性)		低い	やや高い	高い
願望・希望表現の “想”との共起		○	○	○

注：○は使用可、×は使用不可、△は要注意を表す。

まずは、中日対訳の例文を比較したところ、人称の使用においては、日本語では人称制限があるが、中国語には制限がないことが確認できた。

次に、中日における意味表示では、「(意向形+)と思う」と“要”は主観意志を意味する。また、「予定だ」と“准备”は集団や客観的意志を表し、公的な決定事項を意味する。それに対し、「つもりだ」は個人意志を表す。

“打算”はこれらの表現の中間に位置し、個人意志および公的決定事項の両方を表すことができる。オンライン中国語辞書を引くと、“打算”とは、考えあるいは計画と説明されている(《在线汉语字典》:<http://xh.5156edu.com/>、2017年11月20日に検索)。実際は、まだ考え中の計画を近いうちに実行することを意味している。したがって、主観意志を意味する「(意向形+)と思う」と“要”を使うより、客観意志を意味する「予定だ」と“准备”を使ったほうが、行為実現の可能性が高いと考えられる。「つもりだ」と“打算”は、実現の可能性としては、両者の中間に位置している。

さらに、日本語では、願望・希望を表す「たい」/「たがる」とは一緒に表現することができない。しかし、中国語では、願望・希望を表す“想”と共に使用することができる。それは、日本語の場合、願望・希望と意志を表す表現は、同じ心的態度を示すとされるので、重複して使われないからだと考えられる。日本語と異なり、中国語では、願望の“想”は意志の“要”、“打算”および“准备”と同様であるとはされず、一緒にして表現することができる。その意味で、中日では、意志を表す表現の「(意向形+)と思う」に対応する中国語を考えると、“要”、“打算”および“准备”に関しては、意味的特徴が異なるといえよう。

以上のように、本稿では、中日両言語間の相違を明らかにした。これらの微妙な相違があることから、中国人日本語学習者は日本語の意志を表すモダリティ表現を学習する際に、中国語の母語と対応させるために負の転移を生じさせ、上記のような誤用を産出してしまうようである。したがって、中国人日本語母語話者に対して、日本語の意志を表すモダリティ表現を教える際には、中日両言語の違いを提示して、両言語間の相違を教育現場で学習させる必要があるだろう。

6. 今後の課題

本稿はあくまでも中日で対応している例文（中日対訳する例文の正用と誤用）から中日の表現の違いを考察した。そして、日本語習得における主要な要因の一つとして、両言語間における対訳が可能であることが、むしろ中国語である母語からの負の転移を引き起こす可能性を高めていることを示した。

さらに、母語からの影響の以外の多様な潜在要因が想定されるので、両言語の各種の能力テストおよびモダリティ理解テストなどを開発して、実証的アプローチによって、中国人日本語学習者または日本人中国語学習者による中日両言語のモダリティに関する習得における背景諸要因の因果関係を解明していきたい。これらの研究成果を両言語のモダリティの習得に応用していきたい。

意志を表すモダリティ表現の「(意向形+) と思う」「要」「つもりだ」「打算」「予定だ」「准备」
に関する中日対照研究

[参考文献]

日本語：

庵功雄 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.

庵功雄 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.

市川保子 (2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク.

陳会林 (2009) 「周辺のな〈発話・伝達〉のモダリティ表現に関する一考察: 日中パラレルコーパスを用いて比較する」『人間社会環境研究』18, 97-106.

土岐留美江 (2010) 『意志表現を中心とした日本語モダリティの通時的研究』ひつじ書房.

仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房.

仁田義雄 (2009) 『日本語のモダリティとその周辺』ひつじ書房.

益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探求』くろしお出版.

中国語：

吕叔湘 (編) (1999) 《现代汉语八百词 (增订本)》, 商务印书馆.

コーパス検索：

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(少納言) (BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) : <http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>、2017年11月12日に検索.

オンライン中国語辞書：

《在线汉语字典》: <http://xh.5156edu.com/>、2017年11月20日に検索.

(受理 平成 30 年 3 月 10 日)